

備える

その88「復興とは何か」

関西学院大の災害復興制度研究所(兵庫県西宮市)が、「人の復興」をうたった「災害復興基本法」の試案を発表した。これまで災害復興を明確に定めた法律はなく、「街の復興」を優先させてきた過去の反省を踏まえている。「まともな復興政策を災害後の緊急時にまともに行うのは不可能。平時から備えていく必要がある」と重要性を説く。(菅原千晶)

関学大研究所が「基本法」試案

基本的な権利を保障する必要があると語る。試案は、同研究所が五年前で議論してきた復興の理念や、各被災地が必要とされた復興支援を明文化した。前文と十七条からなり、対象を公共の建造物だけでなく、生活や文化、社会経済システムという有形無形のものとした。



山田茂樹主任研究員は試案の意義について「これまで災害で壊れた物を元に戻す『復興』について定めた法律と実定法との間をつなぐ復興の理念法を作り、脆弱な今の社会構造を踏まえて被災者の

被災者主体で「再生」

災害復興制度研究所 阪神大震災で23人の犠牲者を出した関西学院大が、震災10年目の2010年に新設。今年1月に災害復興基本法の試案を発表した。所長は室崎益輝教授で、研究者や行政関係者など学内外に50人以上の研究員を抱える。

域やコミュニティへの配慮(七、十三条)なども定めた。ハードより「人」の試案の条文作成を担った。今回の八条で復興住宅内にグループホームをつくること、仮設住宅を多様な住居に設けるなど、被災者の生活や権利を重視する。被災者の生活や権利を重視する。被災者の生活や権利を重視する。

中越地震被災地では

二〇〇四年十月の新中越地震の被災地は、その弱体化に陥り、復興が困難な状況にある。復興が困難な状況にある。復興が困難な状況にある。



中越地震の被災地、旧山古志村は厚い雪で覆われていた。3月24日、新潟県長岡市山古志で

過疎・高齢化問題が顕在化 住民の意識に変化

復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。

復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。

復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。

復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。

復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。

復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。

復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。復興という構図で官と民をつなぐ橋渡しのなかで、大きな役割を担ってきたのが、行政と被災者との関係だ。



あいち防災リーダー会員の岩井仙一さん(愛西市)は地震がくるたびに、変わって揺れを感じて、フワッと揺れた横揺れ。立っているだけで酔ってしまう。長年、土木建築関係の仕事に携わり、自宅周辺の地盤が緩いことは知っていた。今ではすっかり住宅街だが、昔は

岩井仙一・あいち防災リーダー会員(愛西市)

「花嫁は舟に乗って嫁入りする」と言われた。思いついて手を入れたのは、瓦葺の屋根だ。鉄板に置き替えることで、柱や壁にかかっていた重量を三分の一に軽減。三十五年、木造二階建ての耐震補強工事を決めたのが二年前のことだった。市の無料耐震診断で、判定は「倒壊の危険性が高い」と。横〇・九センチの構造用合板で挟み込む形の耐力壁をつくった。



台所と居間の間に耐力壁を設置した岩井さん(愛西市)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

は、愛西市による独自の制度が始まった。二〇〇三年度の改修は、耐震の総合評価が1・0以上なら、補助金が100万円。岩井さんは「命を守るため、耐震性を少しでも上げれば、それに応じて補助がでるような柔軟な制度が必要」と指摘する。(岩崎健太郎)

屋根軽くし耐力壁設置

(岩崎健太郎)

(梅田誠晴)